

様式 3

令和 2, 3 年度学校防災推進協力校 研究最終報告書

校 名 掛川市立城東中学校

校長氏名 城下 俊介

1 研究主題 学校や地域の実情を知り、自分の身を守る行動がとれる生徒の育成

2 学校の実態（教員数、学級数、児童生徒数、学校・地域の特色等）

学区は掛川市南に位置し、佐東、土方、中の 3 地区からなり、学級数 8、生徒数 215 名教員数 16 名の小規模校である。地域の北側には自然の宝庫である小笠山、西側には戦国時代から名高い高天神城址もあり自然、歴史、文化にも豊かな地域である。

地域には、報徳社があり、報徳の教えが脈々と息づくなど、教育風土が豊かである。日本と中国の心の架け橋となった松本亀次郎氏、日本初の女子医科大学を作った吉岡彌生氏など、多くの偉人を輩出している地域でもある。地域の住民も地域に愛着をもち、地域や学校の活動に対して協力を惜しまない。しかし、人口の減少や少子高齢化環境問題などの課題を抱えており、特に少子高齢化の問題は地域の将来とも密接に絡み合った課題となっている。また、学校敷地が山肌に面しており、過去には崖崩れによって、土砂が校舎内に流入した事案が発生している。学区内にもそうした危険箇所が数カ所存在しており、防災における学校と地域との連携が重要となっている。

生徒は、大変素直で指示されたことに誠実に取り組もうとする姿が見られる。生徒同士の仲もよく、優しさのある生徒が多い。しかし、主体性に欠け、自分で判断して行動する力が弱く、周りを意識するあまりに、全体の中で目立つことを避けようとする傾向が見られる。さらに、人間関係が固定化されており、心の弱さ、自信のなさなどの内面に課題をもつ生徒も多い。集団の中で自ら課題を見つけ、仲間と共に解決していこうとする態度や、リーダーとフォロアーの育成が課題である。

3 研究経過

(1) 研究の全体計画

ア 避難訓練

これまでの本校の避難訓練では、年間 1 回、引き渡し訓練時に教室から体育館への避難を実施していたが、避難経路の確認のみが目的となっており、生徒の判断力、決断力、主体性を育成する上で課題があった。また、避難の動きがマンネリ化しており、学校や地域の実態に即した訓練となっていなかった。そこで、避難訓練を次のように目的別に年間 3 回実施する計画を立てた。（令和 2 年度はすでに年間計画が立案されていたため 2 回）

- 第1回 火災発生想定訓練(避難経路の確認、通学区長の指示や動き確認(予告あり))
事前に通学区会で避難場所、並び方、点呼の仕方等を通学区長を中心に確認。その後、保護者への引き渡し(小中学校合同引渡訓練)。
- 第2回 土砂災害発生想定訓練(主体的に考え、判断する力の育成(予告あり))
通常の避難経路の数カ所を封鎖。3学級の学級担任が避難の途中、けがで避難が困難になったことを想定し、生徒のみで避難、安否確認。
- 第3回 地震発生想定、小中合同訓練(リーダーとして周りの人の安全を考える力の育成(予告あり))
小学校6年生との交流会に合わせて、小中合同で訓練を実施する。

イ 炊き出し体験

災害発生後の避難所において、地域のリーダーとして出来ることを率先して行う態度を育成するため、アルファ米作成の手順を知る。

ウ 逃げ地図づくり

災害発生時は自分で自分の命を守るのはもちろんのこと、地域の力として、小さな子供やお年寄りの命を守る手助けができる力を育成するため小学校6年生との交流会で西部地域局危機管理課の方の御指導の下、通学区ごと中学生が中心となり自宅から地区の避難所までの逃げ地図を作成し、防災力を高める。

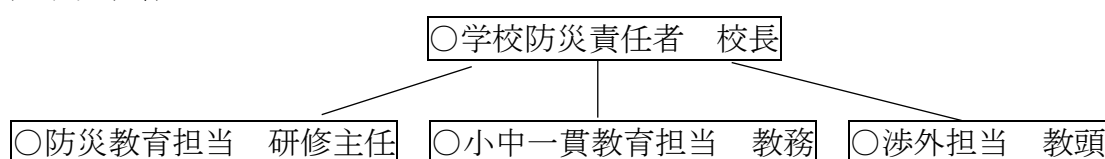
エ 先進校視察(愛媛県宇和島市立吉田中学校)

平成30年(2018)7月の豪雨により吉田中学校区の小学校児童1名が命を落としている。吉田中ではこの教訓をもとに愛媛大学と連携し地域性に基づいた土砂災害を中心にした防災教育を推進しており、その具体的な土砂災害に対する取組について学ぶ。

オ 防災ゲーム

ゲームを通して、楽しみながら防災に親しみ、事前防災の知識や避難所運営のしくみについて学ぶ。

(2) 研究組織



(3) 1年次の研究の内容等

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、教室の通常授業における少人数グループによる活動の制限や、また、教科の授業時数確保のため、教育課程の計画変更が余儀なくされたこと等から、予定していた逃げ地図づくり、先進校視察、防災ゲームが実施できず、来年度に移行となった。

避難訓練、炊き出し体験については、敢えて不便な状況を設定することで、自然に仲間と協働してそれを解決しようと、行動する状況が見られた。

【実施計画】

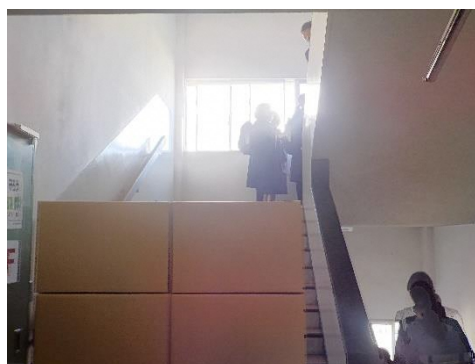
月日	実施事項	実施内容	備考
5.15	① 火災発生想定訓練(小中学校合同引渡訓練)	火災を想定した訓練 ・避難経路や点呼の仕方などの確認 ・地区ごとに集まり、保護者への引き渡しを行う。	
10.23	炊き出し体験	アルファ米を使用し、全校で炊き出し体験を行う。	
1.6	② 土砂災害発生想定訓練	土砂災害を想定した訓練 ・訓練前にDVD視聴(土砂災害) ・校舎の一部を封鎖して避難	

① 1年次の研究の概要

ア 避難訓練

第1回の火災発生想定訓練(小中学校合同引渡訓練)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止せざるを得なくなった。

第2回の土砂災害を想定しての避難訓練では「通行できない所がある。」「担任の先生がいない。」など、いつもと違う訓練を通し、生徒の事後反省からは、「自分たちで考え、行動しなければならないので大変であり、難問でした。」「正しい判断がわからなかったけど、しっかり考えて行動できた。」「先生に代わって指示を出してくれた学級委員とそれに従って静かに移動したみんなの協力があった。」など



訓練を自分事と捉え、有事には自分たちで判断し行動することの重要性を多くの生徒が学ぶことが出来た。

イ 炊き出し体験

アルファ米作成の手順に従って、生徒一人に一つずつ役割を与え、お湯を注ぐところから、片付けまでを全生徒で行った。アルファ米を1学級に1箱とせず、7学級で5箱250人分とすることで、容器につける個数の確認や教室への運搬、片付けなど、自然と学級や学年間で調整したり、自主的に動いたりする生徒の姿が数多く見られた。



(4) 2年次の研究の内容等

令和3年度も昨年度以上に新型コロナウイルス感染症が流行し、4月中旬から6月上旬にかけての第4波、さらに7月下旬から9月下旬にかけての第5波では本県でも緊急事態宣言が出るなど、4月中旬から9月末までの間、教育活動において大きな影響を及ぼした。そのため、2年次の計画も大きく変わらざるを得なくなった。このような状況の中で、生徒自身が主体的に防災教育を学ぶことができる方法を模索した結果、3(1)研究の全体計画のうち、イ 炊き出し体験 と エ 先進校視察 は断念（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）し、ウ 逃げ地図づくり を、3年生による「小学6年生への防災伝達会」とし、それに向けて学びを深め、自ら調べるということに力を注ぐこととした。（オ 防災ゲーム については現在検討中である）

【実施計画】

月日	実施事項	実施内容	備考
4.19	防災ガイダンス 防災クイズ	防災について知る。	
4.26	防災新聞づくり	本を読み、自分たちで防災新聞を作る。	
5.10	防災新聞発表会	防災新聞を互いに発表する。	
5.12	防災講話	専門家の話を聞き理解を深める。	講師招聘
5.14	① 火災発生想定訓	火災を想定した訓練	

	練(小中学校合同引渡訓練)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路や点呼の仕方などの確認 ・地区ごとに集まり、保護者への引き渡しを行う。 	
5.30	防災学習『知る』のまとめ	ここまでの学習を振り返り、まとめ、共有する。	
6.14	D I G 学習について学ぶ	専門家の指導の下、地区ごとに分かれて地図上でD I G 活動を行う。	講師招聘
6.21	D I G 学習実地訓練	実際に自分で調べた地区へ出向き、防災対策について調べる。	
7.5	D I G 学習報告会	調べてきたことをまとめ、防災地図(逃げ地図)を完成させ、互いに共有する。	
8.31	② 土砂災害発生想定訓練	土砂災害を想定した訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路や点呼の仕方などの確認 	
9.27	炊き出し体験	アルファ米を使用し、全校で炊き出し体験を行う。	
11.15	小学6年生への防災伝達会	中学3年生と小学6年生で、各通学区に分かれて、地区の防災について学ぶ。	
1.7	③ 地震発生想定訓練 (小中合同訓練)	地震発生を想定した訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路と点呼の仕方、集合隊形などの確認 ・小学校6年生と小中合同で訓練を実施する。 	

1.	先進校視察	愛媛県の宇和島市立吉田中学校 へ視察	
2.	防災ゲーム		
2.	ふじのくにジュニア 防災士資格取得		

① 2年次の研究の概要

ア 避難訓練

第1回の小中学校合同引渡訓練では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため内容を簡略化して実施した。避難経路を使った避難訓練は行わず、生徒を体育館に避難させた上で、実際に保護者に迎えに来ていただき、学校から保護者（地域）へ引き渡す訓練を行った。



第2回の土砂災害発生想定訓練は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中であったため中止とした。

第3回は、第2回で行う予定であった避難経路の確認、個々の安全確認、集合隊形の確認（クラス別・地区別）などを行った。特に地区別の集合隊形の確認では、事前に通学区長の生徒に周知しておくことで、生徒自らがリーダーとして周りの人の安全を考え行動する力を育成することを主とした。



当初予定していた小学校6年生との小中合同訓練は、小学6年生への防災伝達会（逃げ地図づくり）へと移行した。



イ 炊き出し体験

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

ウ 小学6年生への防災伝達会（逃げ地図づくり）

3年生が自分の卒業した小学校に出向き、後輩である小学6年生に対して、自分たちが学び調べてきた地域防災の知識（防災の概念や自分たちが住んでいる地区や通学路の危険箇所など）をわかりやすく伝えるということを最終目標として4月から11月上旬まで準備を進めてきた。

エ 先進校視察

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

オ 防災ゲーム

1年生はクロスロードゲーム、2年生はHUGを行い、ゲームを通して楽しみながら防災に親しみ、事前防災の知識や避難所運営のしくみについて学ぶ。
(2月以降の予定)

カ ふじのくにジュニア防災士の資格取得

3年生において、意識・啓発コースを選択し受講する。今後、中学2年時で毎年資格の取得を行って行く。

② 小学6年生への防災伝達会に向けて

I テーマ「防災学習 ～地域と共に生きる～」

- II 目的
- i) さまざまな防災学習を通して、緊急の災害に対する意識を高め、防災の知識を深める。また、自らが応急救護など災害の対処法などを身につける。
 - ii) 中学生として、災害時自分や周りの人の命を守るために何ができるかを考え、11月に行われる「小学6年生への防災伝達会」につなげる。
 - iii) 感染症等への対策をし、健康や安全に配慮した行動ができるようになる。

防災学習構想図

— 社会に生きてはたらく力の育成 —



Ⅲ 学習の流れ

【第一段階：知る】

(ア) 防災ガイダンス

- ・防災ウェブingMAPを作ろう。（「防災」という言葉から、どれだけ発想を広げられるか）



(イ) 防災クイズをやってみよう。

- ・iPadで、「防災アプリ～地震発生時の対応について防災クイズで学べる～」を使って防災における今の自分の知識量や正確さなどを確認するとともに、自らの知識を深める。（防災アプリを使って「我が身を守る術」を学ぶ）



(ウ) 防災新聞を作ってみよう

- <目的>
- ・防災について、一冊じっくり読むことで、防災のまとまった知識を得る。
 - ・本を読み、新聞にまとめることを通して、自分なりの考えをもつ。
 - ・互いに発表し合うことで、防災意識を高める。



- <方法>
- ・防災に関する本を読み、グループ内で得た情報を発表会で紹介できるようにまとめる。
 - ・発表会ではグループごとに新聞を見せ合いながら説明をする。
 - ・発表を聞き、感想を互いに伝える。

(エ) 防災講話（講師：静岡県西部地域局危機管理課 佐藤康光）

- <目的>
- ・防災について、専門家の方の話を聞くことで緊急の災害に対する意識や防災の知識を深める。
 - ・「ふじのくにジュニア防災士」知識行動コースにおける講話



(オ) ここまでのまとめ

- 個人でまとめることで自らの学びを振り返る。
- 個人でまとめたワークシートをグループで共有し資料を作成することで互いに理解を深める。



【第二段階：行動する・まとめる】

(カ) D I G 学習 (Disaster (災害) Imagination (想像力) Game (ゲーム)) について

防災講話 (講師：静岡県西部地域局危機管理課 佐藤康光)

- <目的>
- ・防災について、専門家の方の話を聞くことで、緊急の災害に対する意識や防災の知識を深める
 - ・「ふじのくにジュニア防災士」知識行動コースにおける取り組みの一環として、D I G (災害図上訓練) について学ぶ。



(キ) D I G 学習 実地訓練 ～自分たちの地区を知ろう～

- <目的>
- ・自分たちのまち (地区) の地図を使い、グループ (地区ごと) で話し合いながら危険箇所や避難場所、防災用具の位置などを書き込んでいくことで、防災をより具体的かつ身近に感じるとともに当事者意識を高める。

- 「災害を知る」…自分たちで危険箇所などを地図に書き込んでいくことで災害をより具体的にイメージする。
- 「まちを知る」…地図に具体的要素を書き込んでいくことでまちの構造や危険箇所を知り、自分のまちの強みと弱みをより身近なものとして感じる。
- 「人を知る」…人的な要素を書き込んでいくことで、連帯感と信頼関係を育む。

<方法>

- ① 地区ごとにグループを作り、話し合い (互いの知識) や iPad を活用して地図に危険箇所や避難場所などを書き込んでいく。



②グループで実際に地域をまわり、書き込んだ地図の確認をするとともに、どのような防災対策がとられているのかや、実際の避難場所や危険箇所の様子を知る。

- ・消火施設（消火栓、防火水槽）、避難場所（広場や施設）、危険箇所（急な坂道 大きな段差、崖崩れや水難事故が心配な場所、倒れそうな建物や塀）、公共施設（市役所支所、消防小屋、交番、学校 公民館、幼稚園、保育園）、医療機関、飲食店や薬店を探す。

- ・ iPadで撮影し、地図づくりに活かす。



② ②で分かったことについてグループで話し合い、その結果を地図に書き込み、より精度の増した自分たちの地区の防災地図を作成する。

③ ③で作成した地図を見て、自分たちの地区の防災上の良い点や悪い点について話し合う。



⑤D I G学習報告会で、自分たちが調べてきたことを報告確認し合うとともに、自分たちの地区だけではなく他の地区の防災対策を知ることにより理解を深める。

【第三段階：発信する】

(ク) 小学6年生への防災伝達会

<目的>

今まで調べたD I G学習の内容を、同じ小学校区（自分が卒業した小学校）の6年生に伝えることで、防災に関する意識を養うとともに、防災に関する知識を同じ地区に住む者同士で共有する。（「地域で生きる人」として地域の安心・安全に関心を持つ）

① 防災伝達会の準備

当日の役割分担や小学6年生に伝えるための工夫、伝えるときに気をつけることなどをグループ（地区ごと）で話し合う。

② 防災伝達会

城東学園の3小学校（土方小、佐東小、中小）へそれぞれの卒業生が出向き、さらに地区ごとに分かれて、自分たちの住む地区の防災対策等に

ついて、以下の内容を行った。

- ・全体を中学生が運営した。
- ・D I G学習を通して自分たちで作ってきた防災地図（逃げ地図）や地域で実際にとってきた写真をiPadを見せ、危険箇所や避難場所、防災用具の位置などを伝えた。
- ・クイズを利用して、防災についての知識をわかりやすく教えた。
- ・6年生に質問や感想、気になったことを言ってもらい、それに対して答えた。
- ・互いに感想等を書き、それを地区ごとに全員で発表し合い、意見の共有を行った。



③ ふじのくにジュニア防災士の資格取得（3年生）

第一段階から第三段階を通して行った防災学習の積み重ねによって、2月までに、すべての3年生が「ふじのくにジュニア防災士」の資格を取得する予定である。

(5) 研究成果、次年度以降の課題

【研究成果】

新型コロナウイルス感染症に翻弄された2年間であった。すべての教育活動が計画通りに進まず、本研究も軌道修正を余儀なくされた。そのような中で、2年目は3年生のみとなったが、主体的な防災学習を行うことができたと自負している。本研究を通して、中学生一人ひとりが地域防災を自分の問題として捉え、これからの地域を担う若者<将来の地域のリーダー>として活躍していくための第一歩を踏み出したと実感できた。漠然と捉えていた『防災』というものを「まず知る」というところから

始めた。専門家の話を聞き、本を読むなどして自ら調べた。そこから自分が住んでいる地域の防災対策などに目を向け、自ら考え、自ら地域に足を運び、自らが見て聞いてきたことをまとめるなど、実際に「行動する」ことで、目に見えて分かるほどに『防災』というものに対する興味関心が高まっていった。自分たちが地域の防災について学び調べ、そのことによって知識や理解を深めただけにとどまらず、さらに、自分たちの後輩にあたる小学6年生に直接「伝える」ことで、学びを地域に広げるとともに、自らの学びを振り返ることができ、それによって、より『防災』というものに対する理解が深まっていった。これら一連の学習から、中学生にとって『防災』は特別なものではなく、身近なものとして捉えられるようになり、ようやくカギ括弧が取れた、自分事としての防災へと変わることができた。研究主題である「学校や地域の実情を知り、自分の身を守る行動がとれる生徒の育成」のうち、特に「地域の実情」を自らの力で自分事として主体的に知ることができ、小学6年生に伝えることで、「自分の身を守る」だけでなく、地域防災のリーダーとしての自覚が芽生え、自ら進んで、自信を持って行動できるようになったのではないかと感じることもできた。

【次年度以降の課題】

本研究では、3年生が主となっており、1・2年生は避難訓練や炊き出し訓練（防災ゲーム(予定)）のみの参加となってしまった。そのため、学校全体としての学校防災推進とはならなかった。また、昨年度末に愛媛県の宇和島市立吉田中学校（土砂災害により吉田中学校区の小学校児童1名が命を落としており、この教訓をもとに、愛媛大学と連携し地域性に基づいた土砂災害を中心にした防災教育を推進している）へ先進校視察に行くための準備を具体的に進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため断念し、さらに、本年度も昨年度以上に新型コロナウイルス感染症が蔓延してしまったため、最終的に中止という判断をせざるを得なくなってしまった。本校は土砂災害の危険が十分に考えられる立地であるため、機会があればぜひ訪問させていただき、専門的見地に立ったノウハウを学ばせていただき、今後活かしていきたいと考えている。

本研究の内容は、推進協力校になっているのに関わらず、中学校として、地域と共に、常に考え、常に更新し、定期的実施していくことを維持・継続していかなければならない。今後も地域や関係機関との連携を密にしつつ、「学校や地域の実情を知り、自分の身を守る行動がとれる生徒の育成」、またその先の「地域のための人材の育成」を目指していくことが大切であると考えている。